

【天国への手紙

2018年 12月2日 放送分】

ばあばへ

ラジオネーム まさパパ

ばあば、天国は暖かいところですか？ 楽しいところですか？

こちらは遅い初雪を迎え、本格的な冬がやってきました。

ばあばが旅立って6年。この間、ばあばの「七回忌法要」で久しぶりに実家に親族が集まって会食したので、色々なことを思い出しています。

6年前はちょうど自宅を建てた後、引っ越しの真っ最中。

病院からの知らせを聞いて向かうと、両親や親戚の伯父さんたちが

集まっていて、…でも、最期には間に合いませんでした。

ばあばが元気なうちに、もっともっとお話できたら良かったのにな…。

亡くなった翌日は、季節はずれの猛吹雪。

一面真っ白な山の中にたたずむ火葬場で、空に向かっていく

一筋の「煙」を、今でもよく覚えています。

色々な思いが募り、こらえ切れない寂しさで、一方で

感謝の気持ちがあふれてきました。

実家の仏壇近くには、ばあばの米寿のお祝い会で撮影した親族の集合写真が飾られています。写真を見ていると、それから9年ぐらいいが経って、自分も老けたけど、親戚のみんなも老けたなああって、なんだか可笑しくなりました。

小さかったばあばの「ひ孫たち」も高校生になったり、いっぱい増えたりして、ますます賑やかになっています。

自分も子供が2人になり、この前実家に連れて行ったけど、上のお姉ちゃんは自分から「ナムナムするー」といって手を合わせていました。

ばあば、見てくれていましたか？

6年が経ち、みんな少しずつ生活は変わっているけど、こつやつって親戚が集まったらばあばの思い出話に花を咲かせて、お酒を飲んで、ゆっくり穏やかな時間を過ごすことができました。

ばあばも、みんなの様子を見てくれていましたか？

リクエスト

（ 時は昔の話を

／

加藤登紀子

（